

人文学部には、富山の歴史、ことば、文学、地理などを様々な角度から研究し、その多様かつ知られざる側面や魅力の発掘に取り組んでいる研究者がいます。今回は、これらの研究者の最新の研究成果を紹介することにより、皆さまに人文学が解き明かす富山の魅力を味わっていただきたく、このような企画を考えました。ぜひ、富山大学人文学部へお越し下さいませよう、教員一同お待ちしております。

この講座は県民カレッジと連携しています。修了者には希望により県民カレッジから単位が認定されます。

人文学が解き明かす富山

- 第1回 9月17日[土] 13:30-15:00 人文学部1番講義室(1階)
「若者にとっての富山のまちなか
—その時代変化と現在—」
大西宏治[人文地理学]
- 第2回 9月24日[土] 13:30-15:00 人文学部4番講義室(2階)
「『平家物語』における木曾義仲
—倶利伽羅合戦の段を中心に—」
呉羽長[日本文学]
- 第3回 10月1日[土] 13:30-15:00 人文学部4番講義室(2階)
「佐々成政の人物像
—浜松往復関係文書の解読—」
鈴木景二[日本史]
- 第4回 10月22日[土] 13:30-15:00 人文学部4番講義室(2階)
「嵯峨源氏と富山の平安時代
—仮名資料出土の背景—」
鈴木景二[日本史]
- 第5回 10月29日[土] 13:30-15:00 人文学部6番講義室(3階)
「松本清張にとっての富山」
小谷瑛輔[日本文学]
- 第6回 11月12日[土] 13:30-15:00 人文学部4番講義室(2階)
「ことばでつながる越中と薩摩」
中井精一[日本語学]
- 第7回 11月26日[土] 13:30-15:00 人文学部4番講義室(2階)
「越中の古墳と大和政権」
高橋浩二[考古学]

受講料
無料

申込方法：裏面申し込み欄に記入のうえ、下記に郵送するか、ファックスにてお送りください。

問い合わせ先・申込先：富山大学人文学部総務課

〒930-8555 富山市五福 3190 TEL 076-445-6131 FAX 076-445-6141

受講申込書

FAX 076-445-6141

ふりがな 氏名			
住所	〒		
電話番号		e-mail	
県民カレッジ単位認定希望	有・無	カレッジカード番号	

↓希望する講座に○をつけてください(複数可)。

日時:9月17日[土] 13:30-15:00 第1回 会場:人文学部1番講義室(1階) 講座名: 「若者にとっての富山のまちなか -その時代変化と現在-」 講師:大西宏治[人文地理学] 要旨: かつての商店街は若者にとって憧れの場所でした。ところが、今では憧れを感じる場所ではなくなっています。本講演では富山市の中心市街地を過去から現在まで若者がどのように利用し、どのように楽しんできたのかを説明します。そして、現在、若者が新たに取り組み始めた中心市街地でのまちづくり活動を紹介します。	日時:9月24日[土] 13:30-15:00 第2回 会場:人文学部4番講義室(2階) 講座名: 「『平家物語』における木曾義仲 -倶利伽羅合戦の段を中心に-」 講師:呉羽長[日本文学] 要旨: 源平争乱の際、北陸道倶利伽羅峠で平家軍を破った木曾義仲について、「平家物語」における彼の人間像を見通しながら、越中関連の記事、特に倶利伽羅合戦の件りに注目して、その作品中に果たす意味について考えます。その際「平家」諸本の記事の異同にも触れて、合戦譚が成熟していく姿についても言及したいと思います。	日時:10月1日[土] 13:30-15:00 第3回 会場:人文学部4番講義室(2階) 講座名: 「佐々成政の人物像 -浜松往復関係文書の解読-」 講師:鈴木景二[日本史] 要旨: 戦国時代の富山城主佐々成政について、近年、新史料が見つかり研究が進展しています。今回は、成政と謎の人物村上義長とがやり取りした書状を詳しく読み解いて、成政はどんな人だったのか、「さらさら越え」の史実はどこまでわかっているのか、ということについてお話いたします。
--	---	--

日時:10月22日[土] 13:30-15:00 第4回 会場:人文学部4番講義室(2階) 講座名: 「嵯峨源氏と富山の平安時代 -仮名資料出土の背景-」 講師:鈴木景二[日本史] 要旨: 地元ではあまり知られていませんが、全国で数件しかない成期の平仮名の肉筆資料が富山で見付かっています。平安京の最先端の文物が、なぜ富山にもたらされ残ったのか。近年、それが嵯峨天皇の皇子に関係していたと推測されています。今回はその研究について、詳しくお話いたします。	日時:10月29日[土] 13:30-15:00 第5回 会場:人文学部6番講義室(3階) 講座名: 「松本清張にとっての富山」 講師:小谷瑛輔[日本文学] 要旨: 松本清張は、活動最盛期の代表作「ゼロの焦点」で石川県を旅情たっぷりに描き、作家活動の総決算に入っていく時期に富山県を舞台とした作品「疑惑」を書いています。北陸を描いたこの二つの作品を軸として、松本清張の地方都市への視線について考えます。彼の推理小説において、富山という土地はどのような役割を果たしていたのでしょうか。	日時:11月12日[土] 13:30-15:00 第6回 会場:人文学部4番講義室(2階) 講座名: 「ことばでつながる越中と薩摩」 講師:中井精一[日本語学] 要旨: 北前船は蝦夷地の昆布、鮭、鯨や東北の木材などを西国へ、西からは米や酒、木綿や雑穀などを運びました。なかでも昆布は、薩摩、琉球、中国に至る交易ルートの主要産品であり、この交易には越中売薬が大きく関与していました。交易のルートに注目し、言語文化における越中と薩摩の関係およびその影響について考えてみます。
--	--	--

日時:11月26日[土] 13:30-15:00 第7回 会場:人文学部4番講義室(2階) 講座名: 「越中の古墳と大和政権」 講師:高橋浩二[考古学] 要旨: 富山県内には、3世紀後半～6世紀頃の古墳時代に築造された古墳が、およそ1050基も存在すると言われています。これらのうち主要な古墳を紹介しながら、その変遷や分布の特徴などに関する私の研究をご報告します。そして、古墳の分布や副葬品などの特徴から推定できる大和政権との関係性などについてお話したいと思います。
--

富山大学内会場案内図

富山大学人文学部

- 第1回 人文学部1番講義室(1階)
- 第5回 人文学部6番講義室(3階)
- 第2・3・4・6・7回 人文学部4番講義室(2階)

問い合わせ先・申込先

富山大学人文学部総務課
 〒930-8555 富山市五福 3190
 TEL 076-445-6131
 FAX 076-445-6141

